

第35回技術研究発表会 梗概 < I 論文 >

C.都市の再興・まちづくり

【HP 掲載No. C04】

発表No.	C02
タイトル	徒歩圏を根拠とした立地適正化計画の誘導区域設定に関する一考察
所属・名前	長岡技術科学大学 丸岡 陽 国土交通省 国土技術政策総合研究所 益子 慎太郎
キーワード	① 立地適正化計画 ② 徒歩圏 ③ オープンデータ
<p>立地適正化計画制度は従来の都市計画にない概念として誘導区域の設定を要請している。誘導区域の根拠として施設などを中心とした一定の半径の円形の徒歩圏を採用する事例が散見されるが、地域や個人の状況を考慮しない画一的な徒歩圏の妥当性には検証の余地がある。本論文は、円形の誘導区域の妥当性を検証することを目的として、①全国の円形誘導区域の実態調査と、②実際に円形誘導区域が設定された地域に対する年代・地形・階数を考慮した徒歩圏分析を行った。</p> <p>全国で25都市が円形の誘導区域を設定しており、その多くは駅やバス停を中心として国土交通省のハンドブックに準拠した半径を採用していた。また、高松市を対象とした徒歩圏分析の結果、勾配の有無や居住階数よりも、高齢者・非高齢者の差異が徒歩圏の広がり左右することが示唆された。円形誘導区域の設定に際してはターゲットとする年代に留意した検証を行うことが望ましい。</p>	